

第208回 河川文化を語る会

ごみのない豊かな伊勢湾をめざして

22世紀奈佐の浜プロジェクトの軌跡とこれからの展望
～豊かな伊勢湾をめざして～

22世紀奈佐の浜プロジェクト

講師 プロジェクト代表 **小浦 嘉門 氏**
プロジェクト副代表 **千葉 賢 氏**
四日市大学教授

資料提供・協力 22世紀奈佐の浜プロジェクト委員会 (NSP22)・近藤朗
全国川ごみネットワーク「海洋プラスチックごみについて考えよう」
NGO共同制作／WWFジャパン、日本野鳥の会、他

1

プロローグ

海洋プラスチックごみについて考えよう

2

今、世界中の海で起きていること

写真 OWS-NMSP
写真 OWS
写真 OWS

3

流出するプラスチックごみ

写真 全国川ごみネットワーク
写真 全国川ごみネットワーク

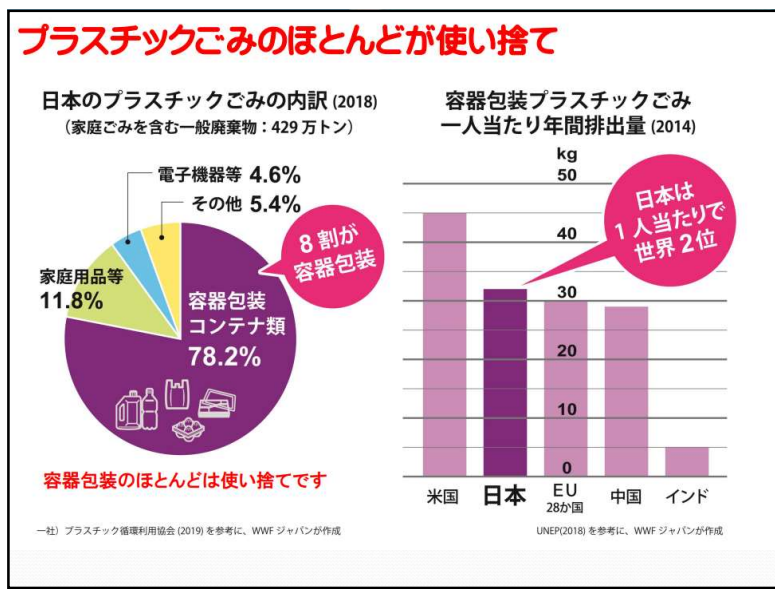
4



5



6



7

私たちにできること

- まず、リデュース(減らそう)!
- ごみを拾おう!
- 広げよう!!

マイボトル

マイバッグ

使い捨てアメニティ等を利用しない

プラスチック削減に取り組むお店を応援しよう

プラスチックごみの問題を人に伝えよう

イラスト: 片岡海堂

8

22世紀 奈佐の浜プロジェクト

離島から河川流域を巻き込む取組みへ
～ ごみのない豊かな伊勢湾をめざして ～



NSP22 近藤 朗

9

それは、答志島漁師さんたちの SOSから始まった



鳥羽市 答志島 奈佐の浜海岸

10

様々な川から奈佐の浜にゴミが流れ着く



- 年間1万トンを越える流下ごみが伊勢湾へ
- その内1/2が三重県鳥羽市へ
- 大半が答志島・奈佐の浜へ



岐阜から奈佐の浜に流されてきた看板！

11

プロジェクト発足(2012)経緯

- 2011. 12月 鳥羽市答志島からのSOS (海づくり会議みえ)
- 2012. 1月 3県1市 知事会議での三重県知事アピール
- 2012. 1月～3月 愛知、岐阜などで海岸清掃(市民)提案
「ゴミと水を考えるつどい」(1/29 名古屋市)
「森・川・海ひだみの流域シンポジウム」(2/26 岐阜県)
「伊勢湾流域再生フォーラム」(3/3 名古屋市)
- 2012. 4.1 22世紀 奈佐の浜プロジェクト 発足
- 2012. 6.9 第1回 奈佐の浜 海岸清掃 スタート(300人)
- 2012. 9.8 秋の奈佐の浜 海岸清掃(500人)～現在に至る

12

プロジェクト活動(2012～2019)

- 2012. (春、秋で)奈佐の浜、安楽島で海岸清掃(800人)参加
- 2013. (春)岐阜 郡上市・長良川(150人)、(秋) 奈佐の浜(300人)
2013年より春の「流域エクスカッション」開始 ～3県リレーで
- 2014. (春)愛知 渥美半島・西の浜(300人)、
(秋) 奈佐の浜(300人) 2014年(秋)より「学生交流会」スタート
- 2015. (春)三重 美杉 植樹(250人)、(秋) 奈佐の浜(300人)
- 2016. 5.27～28 市民の伊勢・志摩サミット「提言」
- 2016. (春)岐阜 揖斐川・徳山ダム(150人)、
(秋)「全国海ごみサミット2016」 奈佐の浜(海外含 360人)
- ～2019. 8年目 16回で約4,000人が参加

13

伊勢湾流域圏を知る

2015 三重・美杉村



2016 岐阜・徳山ダム



2017 名古屋市・藤前干潟



14

奈佐の浜海岸清掃 2022.秋



15

新時代・学生部会躍動(2018～2022)

- 2018～. 全国への発信活動 いい川・いい川づくりワークショップなど
2018 北海道大会(準グランプリ) 2019 京都・滋賀大会(中部大会誘致)
ところが 2020年(春)より 新型コロナ感染拡大、いい川WS延期 どうする？
- 2020. 学生たちが伊勢湾流域圏を駆け巡る ～流域活動取材・広報発信
- 2020.12.26～27 ゆく川くる川 川談義 全国オンラインイベント
- 2021.10.1～3 第13回 いい川WS in 中部 長良川大会開催
- 2022. 第14回いい川WS、第1回中部のいい川WSで発信
- 2022. 10.8～9 3年ぶり奈佐の浜海岸清掃 (160人)
初の学生合宿開催
- 2022.11.10 四日市海岸にて岐阜市長良西小学校と地元楠小学校交流会

16

奈佐の浜・学生部会活動



17

奈佐の浜プロジェクトのポリシー

- ごみを拾うことを「目的」にしない
- 伊勢湾流域全体を「活動場所」とする
～ 年2回開催 春の流域学習会、秋の奈佐の浜
- 訪れる地域と向合い、きちんと交流する
- 参加者を固定せず、広げていく、外へと繋がっていく
- 世代継承、人材育成の場とする ～「学生交流会」

18

プロジェクトの成果とは？

ごみを拾い続けるだけでは、何も解決しない

- 流域が繋がっていることの可視化、情報共有、発信
- 新たな繋がりを構築 広域、行政、研究者、学生など
～ 広がり「新しい公共」の可能性
- 地域の気づき ごみと恵み、営みの重要性、
単なる被害者意識からの脱却

19

これからの展望

ごみを拾い続けるだけでは、何も解決しない

- 発生源対策へ 社会、生き方、暮らし方を変える
～ 行政、企業の参加・さらなる連携が不可欠
- 人材(担い手)育成の「奈佐の浜モデル」を構築
～ 「学生会議」の継承(シードバンク)と広がり
- 流域圏内のモニタリングを進める(流域圏調査)

20

//22世紀奈佐の浜プロジェクトの軌跡と展望//

伊勢湾の海洋ゴミ問題

四日市大学環境情報学部
千葉 賢

2023年3月19日 第208回河川文化を語る会

21

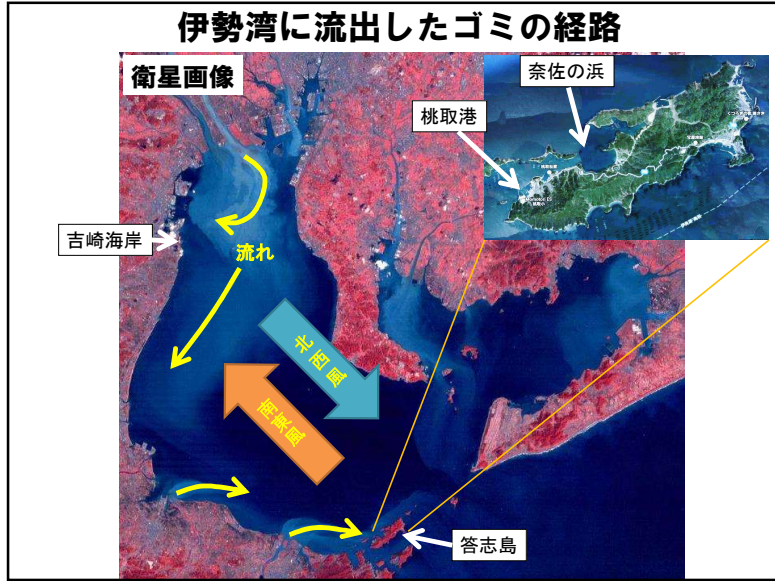
日本の海洋ゴミ対策への動き

時期	内容
2007～2010年度	環境省：漂流・漂着ゴミに係る国内削減方策モデル調査
2009年7月	海岸漂着物処理推進法の施行
2009年度～	海岸漂着物現地調査(愛知県、三重県)
2011～2012年	海岸漂着物対策推進計画 (愛知県、三重県)
2016年10月	海ゴミサミット2016三重会議
2018年6月	第四次循環型社会形成推進基本計画
2018年6月	海岸漂着物処理推進法の改正 (MP対策を明記)
2019年6月	G20大阪(大阪ブルー・オーシャン・ビジョンとマリーン・イニシアティブを日本が表明)
2020年度	環境省：「海洋ごみ削減のための複数自治体等連携による発生抑制対策等モデル事業等検討会」
2021年度	海岸漂着物対策推進計画 (岐阜県)
2022年4月	プラスチック資源循環法の施行

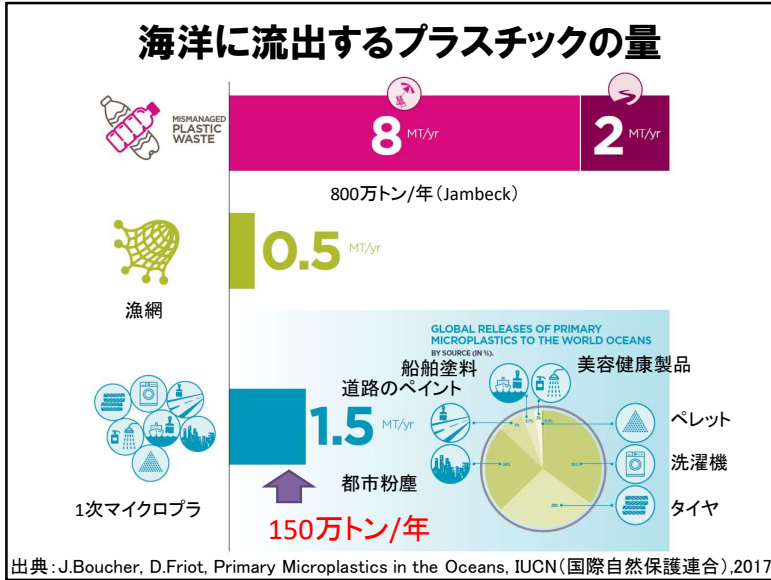
22



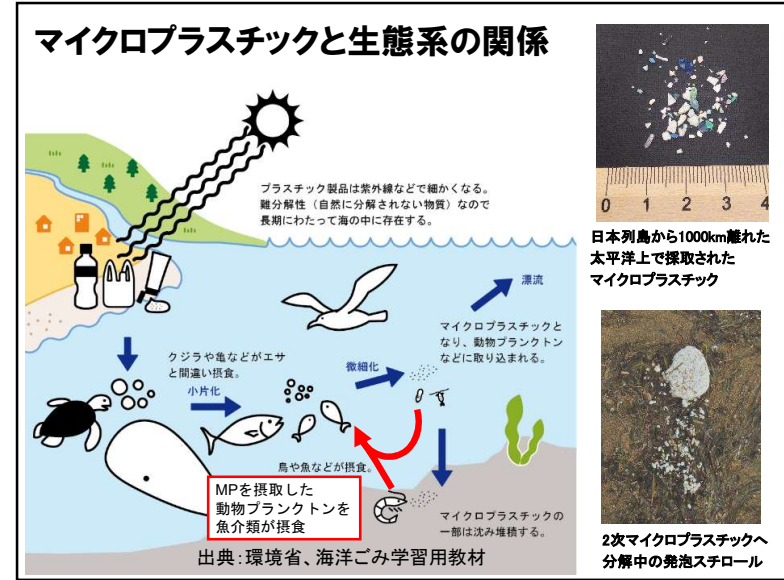
23



24



25



26

徐放性肥料プラスチック (樹脂被覆肥料、PCRF)

直径3~4mm。水質保全に役立つと同時に、追肥が省略できるため、農作業の省力化に役立つが、その樹脂被覆が大量に海洋に流出している

吉崎海岸の分析(千葉研)では、ポリエチレンとポリウレタンの2種類と判明

レジンペレット

プラスチックの原料で直径数mm。石油化学工場で製造され、成型場でプラスチック製品となる。最近では再生ペレットも生産されている。どこで環境中に放出されるか不明。

吉崎海岸・奈佐の浜の試料の分析(千葉研)では、大半はポリエチレンとポリプロピレンと判明

27

人工芝片

ゴルフの練習場などの体育施設や家庭などで使われている人工芝が劣化して抜け出したもの。

ポリエチレンとポリプロピレン製が多い

その他

シート状、スポンジ状、パイプ状、繊維状、テグスなどの種類がある。

松阪沖の伊勢湾海面で採取されたマイクロプラスチック

28

伊勢湾のマイクロプラスチックの発生源

マイクロプラスチックの種類	主な発生源
徐放性肥料プラスチック	水田
発泡スチロール片	漁業、養殖業
レジンペレット	石油化学工場、プラスチック成形業者、再生ペレット製造業者
人工芝片	野外のスポーツ施設
硬質プラスチック片	様々なプラスチック製品(特定困難)

29

奈佐の浜での、マイクロプラスチックの数 ～ 四日市大学の学生達の調査 ～

なんと、**60,994個**なんです！！！！

30cm×30cm高さ5cmの範囲で。



これを魚が食べて生物濃縮により
多くの生物に悪影響を及ぼす。

水産に利用される肥料カプセル

つまり、豊かな海が損なわれてしまう！

30

マイクロプラスチックの発生抑制について

- マイクロプラスチックは**種類別の対策**が必要。発生に関わる**業界に働き掛ける**ことが効果的。
- 2次マイクロプラスチックは、**断片化前に回収**することが極めて重要。特に**発泡スチロールの断片化速度は速い**ので、河岸・海岸等で回収する体制を**自治体と業界**が協力して取り組むべき。(一般廃棄物vs産業廃棄物の問題)
- マイクロプラスチックの毒性が明らかになるには時間がかかる。現在は**予防原則**の立場で動くことが必要。

31

自然ゴミの発生抑制対策について

- 人手・予算不足の中で、森林・河川管理にこれまで以上の労力を割くことはかなり難しいと考えられる。(議論の前提条件)
- まずは、森林管理者、林業関係者、河川管理者との**情報共有**を図り、**海の自然ゴミ問題を認知してもらう**ことが重要。(これが十分に出来ていない)
- そして、**森林・河川管理の計画目標**に「**海への流木抑制**」を明記してもらうことが第一歩になる。
- その上で、森林管理に含まれる土石流・斜面崩壊対策については、**主河川や海への流出が懸念される場所**について、**重点的対策を施す**ようになることが、自然ゴミ発生抑制に繋がると考えられる。

32

自然ゴミに対する新たな視点の導入 (倒)流木の生態学的機能

- 有機物を供給し、微生物群集の生息基盤を与える。
- 河川ではトビケラ・ユスリカ等、海岸ではゴミムシ等の昆虫の生息場を提供し、多様性を高める
- 海岸では流木下のゴミの中でヨコエビが生息し、有機物を分解しているが、ヨコエビは魚類の重要な餌である。
- 河川では淵を形成し、魚類の生息量を増大させる

参考: 矢野真一郎、田井明、北隆範、出水時における流木の発生、第4回流域圏シンポジウム、2013

自然ゴミを減らす極端な対策は、生物の生息の場を奪い、生物多様性を低下させる危険性もある。



「22世紀奈佐の浜プロジェクト」のゴミゼロ目標の変更が必要かも